

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	豊住 竜志
主な担当科目	ハーモニー演習①_C,ハーモニー演習②_E,ポリフォニー演習,ミュージックセオリー(上級),楽曲分析特殊講義,鍵盤ソルフェージュ②_C,対位法,聴音・視唱ソルフェージュ②_A,聴音・視唱ソルフェージュ②_B,聴音・視唱ソルフェージュ③,博士楽曲研究特講Ⅰ,副科グループレッスン_E,副科グループレッスン_H,作曲
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	作曲レッスン(主科・副科)及び音楽理論／ソルフェージュなどのクラス授業を担当している。学生の個性を尊重した能力・資質の向上に貢献するために授業評価アンケートの内容をもとに改善と工夫を行うことを心がけ、よりわかりやすい授業運用を実施することを目指した。また今年度は新たに「作曲の理論テキスト」の作成や、昨年に引き続き他教員と共にyou-tubeによるソルフェージュ自習用教材(中級以上)の作成に取り組んだ。
2024年の教育に関する自己評価	レッスン担当の学生が第2回昭和音楽大学作曲コンクールに入選、音楽大学作曲科交流演奏会2023(東京音楽大学)と第4回学内発表会(オーケストラ試演会)にそれぞれ選出、第15回音楽大学オーケストラフェスティバル2024のファンファーレ公募に入選するなどの実践的成果をあげることができたと思われる。今年度新たに取り組んでいる「作曲の理論テキスト」(現在も執筆中)は学び始めの学生にも理解しやすい内容を目指したものであり、またyou-tubeによるソルフェージュ自習用教材(中級以上)の作成を(初級)に引き続き作成したことによって、今後のより良い授業運用のために一つの成果をあげることができたのではないかとと思われる。
2024年のFD活動に関する自己評価	各部会・分科会のFD研修会に全回出席し、年間テーマを中心とした研修および授業運用に関する教員間の意見交換について積極的に学ぶように心がけ、見識を深めることができたと思われる。FD全体研修会においては、研修内容が充実していたため今後の授業運用や学内運営に携わるにあたり、参考になった。また、分科会ではファシリテータを担当し、教員と事務職員による活発な意見交換を行うことによって深く学ぶことができたと思われる。
授業改善のために取り入れた研修内容	各教員が実践している指導法／授業運用方法は学生と接する上で心がける必要のある内容が多く、自分自身のレッスン／授業に活用している。ソルフェージュFD研修における意見交換は、次年度から実施される「セメスター制」の新カリキュラムの授業内容策定に関して大変参考になったため取り入れる様に検討している。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0274 教員名:豊住竜志

1)アンケート結果に対する所見

【実技レッスンについて】

作曲・エレクトロニクス実技(主科)および作曲Ⅱ(副科)を担当。一部の設問に1割程度「少し思う」が見られたものの、ほぼ全ての設問に対して「そう思う」の回答を得ることができて大変良好な結果であった。担当学生が音楽大学作曲科交流演奏会へ出品、卒業演奏会に出品などの成果をあげることが出来たことが結果につながっていると思われる。

【クラス授業について】

履修生が2名程度のためアンケート結果が返却対象外の科目が一部あるため、すべての授業を網羅できないが、設問全体に「そう思う」の回答が多く寄せられている科目に「ハーモニー演習②、聴音・視唱ソルフェージュ②」があり比較的良好な結果であったと思われる。「ハーモニー演習①」「ポリフォニー演習」の一部の設問に「少しそう思う」などの回答が見られるのは、理論的解説と演習が中心となるため、より関心を持って授業が受けられるように工夫を取り入れたと考えている。

2)要望への対応・改善方策

【実技レッスンについて】

特に要望等はなく自由記述欄にも良い感想が寄せられており、数年間継続して良好な回答が得られていると思われる。引き続き理論面と音楽的感性や発想力をバランスよく育成し、個性的な創造性を発揮できるように指導を行なっていきたいと考えている。

【クラス授業について】

「聴音・視唱ソルフェージュ②の自習用課題」「ハーモニー演習②・ポリフォニー演習の補助資料集」を活用した授業運用を継続して行っており、一定の成果をあげていると思われるが、今回のアンケート結果から音楽理論系科目においては演習以外に、楽曲の解説を多く含めるなど、興味関心を持ちやすい内容を授業にもう少し多く取り入れて行きたいと考えている。担当授業を含めて、学内ソルフェージュ履修学生対象の自習用課題「ICTを活用した YouTube によるソルフェージュ課題」を昨年までに Basic Advanced の2コンテンツを他教員と共同で作成し授業外学修を充実させるための対応に取り組んだ。

3)今後の課題

以前からの懸案であった「副科作曲の教科書作成」を 2024 年に執筆・完成した。

現在、副科作曲グループレッスンでテキストとして使用している。初めて作曲を学ぶ学生がコード進行法やピアノ曲の伴奏を作る基礎を学ぶ内容であり、今後その成果を検証して行きたいと考えている。今後も上記のような授業で活用できるテキストの開発や ICT を活用した授業運用の研究を行なって行きたいと考えている。

以上